

埋 蔵 文 化 財 専 門 職 員 (正 職 員) 採 用 試 験 案 内

1 職種、採用予定人員及び勤務場所

職 種	区 分	採用予定人数	勤 務 場 所
埋蔵文化財専門職 (正職員)	区分Ⅰ (経験不問)	1～2名	栃木県 埋蔵文化財センター (栃木県 下野市 紫474番地)
	区分Ⅱ (経験者)	1～2名	

2 試験の日時、場所及び合格発表

区 分	試 験 日	試 験 科 目	時 間	合格発表日
区 分 Ⅰ	第一次 令和 4 年11月12日 (土)	基礎能力試験 ●	45分間	令和 4 年 11 月 18 日 (金)
		専門知識試験 ■	45分間	
		パーソナリティ検査 ●	35分間	
	第二次 令和 4 年11月26日 (土)	面接試験	30分間	令和 4 年 12 月 2 日 (金)
区 分 Ⅱ	令和 4 年12月17日 (土)	専門知識試験 ■	60分間	令和 4 年 12 月 23 日 (金)
		パーソナリティ検査 ●	35分間	
		面接試験	30分間	

※ 1 試験会場は、すべて栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市本町1番 8 号)です。
※ 2 試験科目欄中、●はマークシート方式、■は記述式(択一及び穴埋め)で実施します。

3 申込み(受験)資格

区 分 Ⅰ	令和 5 年 4 月 1 日現在で35歳以下の者(昭和63年 4 月 2 日以降に出生した者)
区 分 Ⅱ	(1) 令和 5 年 4 月1日現在で50歳以下の者(昭和48年 4 月 2 日以降に出生した者) (2) 埋蔵文化財の発掘調査業務に概ね10年以上の実務経験を有する者
区分Ⅰ・Ⅱ共通	(1) 学校教育法に定める 4 年制大学又は大学院において考古学又は古代史を専攻し卒業(修了)した者若しくはそれと同程度の能力を有すると認められる者 (2) 普通自動車運転免許を取得している者 【注】(1)及び(2)は、令和 5 年 3 月31日までの卒業(修了)及び取得見込みを含む

※ 欠格事項等、詳細は必ずHPをご覧ください。

4 申込書式及び申込受付期間等

当センターのHPにおいて募集の詳細を確認の上、申込書式をダウンロードして応募ください。 HP : <http://www.maibun.or.jp/syokuinsaiyou/r4syokuinsaiyou.html>

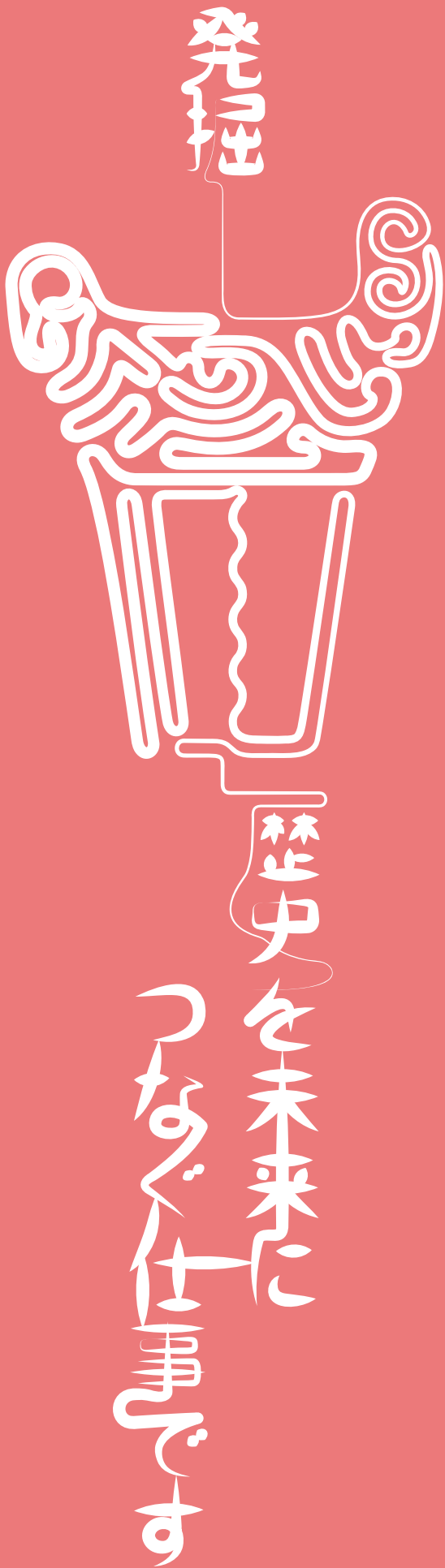
区 分 Ⅰ	令和 4 年 9 月26日(月)～10月28日 (金)
区 分 Ⅱ	令和 4 年11月14日(月)～12月 2 日 (金)



5 採 用 最終合格者は、令和 5 (2023) 年 4 月 1 日採用予定(採用の日から 6 か月間は条件付採用)

6 問い合わせ (公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 採用担当
〒329-0418 栃木県下野市紫474 番地
電話 : 0285 (44) 8441 mail : webmaster@maibun.or.jp

(公財)とちぎ未来づくり財団



埋蔵文化財センター正職員募集

考古学史を紐解くと

栃木県は結構凄いらしい…

そんな「とちぎ」で、あなたの考古学（埋蔵文化財発掘調査）人生をはじめませんか

日本考古学発祥の地

元禄五年（一六九二）、徳川光圀は、那須国造碑（国宝）に記された人物の墓を特定するため、侍塚古墳の発掘調査を実施。絵図面作成後、遺物を埋め戻し、墳丘の保存工事を行いました。
令和三年から、「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」として、三三〇年ぶりの発掘調査を進めています。



下侍塚古墳



県外出身職員のおすすめ

住宅街から自然公園までの距離が近く、のびのびとした環境で遊べ、子育てしやすいです。（福島県 30代）
多くの種類のイチゴから好みを選べる上、その完熟100%ジュースが普通に家庭で飲める。（神奈川県 50代）
東京から近い割に落ち着いた人が多い。蕎麦は手打ちが当たり前、また、温泉が嬉しい。（千葉県 50代）

埋蔵文化財センターアクセス

- **東京** 駅から新幹線利用で**小山** 駅まで**40分**。
- **渋谷** 駅から湘南新宿ラインで**小山** 駅まで**80分**。**小金井** 駅まで**85分**。

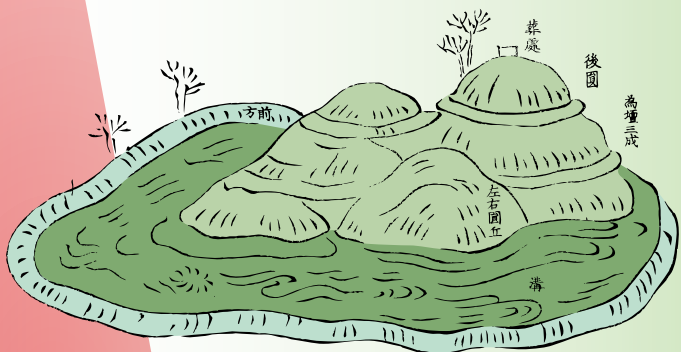
※小山駅から車で**20分**。小金井駅から車で**10分**。

まだまだあるぞ 栃木の遺跡

- 原始 寺野東遺跡（日本初確認の環状盛り土遺構）
- 古代 下野薬師寺（日本三戒壇 東国一の律令寺院跡）
日光男体山頂遺跡（山の正倉院と言われる祭祀遺跡）
- 中世 下古館遺跡（奥大道の宿跡）

前方後円墳の名付け親

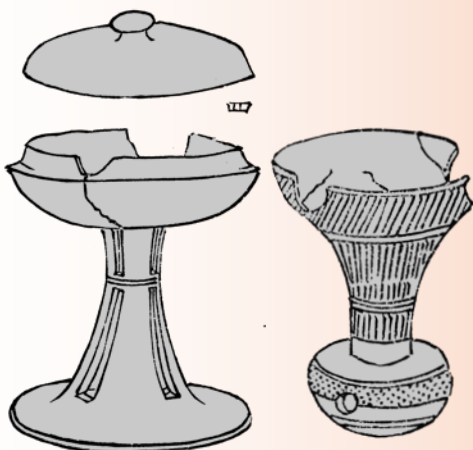
享和元年（一八〇一）宇都宮出身の蒲生君平は著書「山陵志」で「前方後円」の語を発案。
教科書に登場する「前方後円墳」はここから始まりました。



「山陵志序」の「前方後円図」

近代考古学発祥の地

明治十九年（一八八六）、「日本考古学の父」坪井正五郎は、足利公園古墳群で、国内初の西洋式考古学（Archaeology）に基づく発掘を実施。その成果は『東京人類學會雑誌』に発表されました。



足利公園古墳出土須恵器